回記念祭歌

静寂の底に力を秘して 高くみあげて岩打つ波間 曇天低く睛緑 の山ま

未蕾は満ちて華ならんない。 ては消える蒼銀の魚影がが

一瞬ここに己を賭して 散る葉をうけて渦まく白泡 急滝高く紅の木々きゅうりゅうたか くれない きぎ

祭りは咽れ

く華たれや

白銀に煌めけ緋赤の川面

刹那 輝 き我今生きて 世のなかがや りれいまい 街影映す学舎の流れ 咲くは次代の華なれや 札幌に舞う川辺の銀鱗

月影長、 く原始林を貫

き

伊 樋 藤 浦 小雪 希 君 君 作曲 作歌